

おきてはいけない戦争

子ども平和新聞

2025.7.29
大成小5年(野崎恵孝)
大谷小5年(阿部 稔)
田間宮小6年(梅田 珠樹)
瀬和中学校1年(井陽向)

人々の命がうばわれる



当時、何が起きていたかわからなかった
語り 木内 さん

戦争は、食べ物も、
ししか食べられないう
えに、命もたくさん
ばわられてしまう。
木内さんは、小當
年生のときに、分校で
石けり遊びをいたと
きに、空がビカッと
かり気をつけてしま
いました。するとあた
りはずり暗く、大島で
人ひいた夜通を失っ
てしまいました。この

うなこともあり、空
が赤い色に染まり、
あつたけり出たナ
うで、そして、な
んて私だけ、生きて
るんだ、うと、さん
思うこともあった
です。
食や物はあまりおい
しくなく、そのうえ
しかたがた、たそ
な、このころ、戦争
ことはなかつたそう
な、男のぼろを見

戦地で救命 殉職救護員



目をたたえる文章が刻
まれている。毎年五月
には追悼式を行うそう
だ。この慰霊碑が戦争
の悲惨さを思い出させ
るきっかけとなり、平
和な世の中になると願
っている。
(平井)

日本赤十字社埼玉県
支部の敷地内に「殉職
救護員之碑」という銅
像がある。これは海外
に派遣された救護員が
戦争によって職務中に
亡くなった人をたたえ
る碑だ。
碑の表には殉職した
三十三名の名前が、碑
の裏には殉職した救護
員の名前が刻まれている。

天皇の権威をまもる



御真影をまつる奉安殿

毎日、陛下の御下校の時
に、奉安殿に對する礼
を欠かさないといつた
生徒へのしつけにも便
われた。つまり、天皇
の権威を日常的に感じ
させるもの、ひいては
、た、戦後、奉安殿
は取り壊されたが、地
域によつては神社とし
てそのまゝ残されてい
るものもある。(阿部)



平和をいめる

平和新聞をかくため
実際に戦争をいけん
した、被爆者の木内さ
んに話をききました。
当時の話をしながら木
内さんは涙を流し
ていました。なぜだ
たのでしょ、木内さ
んは自分がみんなを助
けたいという思いでか
んご小になり、今でも
戦争はおきてはならな
いものという気持ち
強くもっていました。

今でも戦争への活動
続けており、昨年木内
さんが活動をしてい
る日本被爆協議会がノ
ベル平和賞を受賞され
ました。木内さんは実
際に戦争をいけんし、
もう二度とおきないよ
うに強くねがったか
らこそ、おさの今でも
元気に活動しているの
かもしれせん。木内
さんのあのなみだも、
今も木内さんの力にな
っているかもしれせん。
今も世界で戦争はお
こつていますが、木内
さんのような思いをも
てば、戦争はなくなる
と信じています。(阿部)